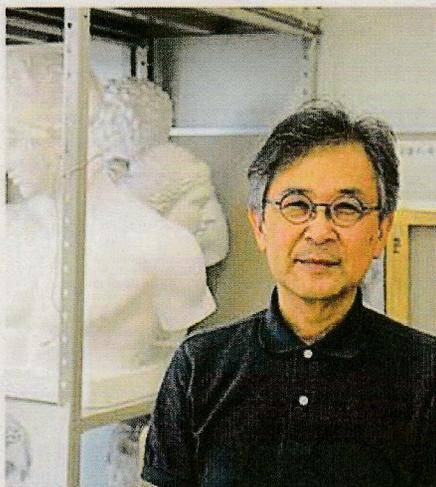


青春スクロール

母校群像記

美術部に逸材 アートの伝統脈々と



現在は県立学徳館高校で美術を教えている青木

栃木高校（以下、^高高）構内に、ちよっとおもしろい記念碑が立っている。歴代の全国高校漫画選手権大会「まんが甲子園」出場記念盾だ。高をまんが甲子園常連校に育て上げたのが、自身もOBの青木世一（60、1972年卒）。高時代は物理部。「もともと工業デザイナーになりたかった」。美術教師として赴任したのが85年。以来、2004年まで美術や漫画の指導をしてきた。まんが甲子園には96年の初出場以来、最優秀賞2回、実行委員会会長賞をとるなど青木の指



栃木高校 ③

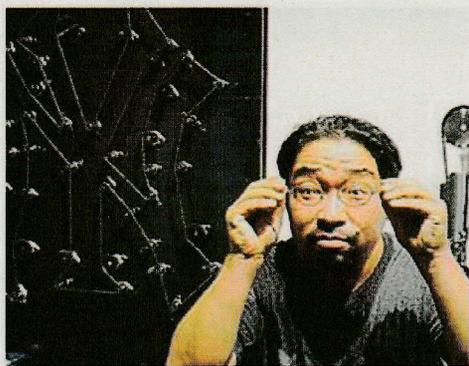
青木の教え子では、小山市出身の造形作家タムラサトル（41、91年卒）がいる。バスケットボール部に入部したが、「監督が怖い」とやめた。2年のはじめに美術部でデッサンを始めた。高校時代は楽しかったと振り返る。「変な先生もいっぱいいた。テスト中に竹刀を持って、突然、「面！面！」といいながら素振り始めた先生とか。いろんな意味で危なかった。今は「意味の破壊」を主要テ



まんが甲子園出場記念盾

導の成果が表れる。今年は8年ぶり8回目の出場を、栃木女子高とともに決めた。

1マに、動物や電気、プラスチックなどを使いながら独自の世界を展開。東京、横浜、宇都宮などで個展を開催している。



自身の作品、チェーン文字「ニューヨーク・ヤンキース」マークの前でおどけるタムラ

タムラの2年下には漫画家になった熊倉隆敏（39、93年卒）がいる。漫画研究同好会（現在は漫画創作部）に所属。同人誌を作っていたが、当時の生徒の間で「熊倉君は絵が上手」と評判に。ファンタジーものを中心に描いていた。月刊アフタヌーンなどで連載した「もっけ」で知られる。高時代には才能

高美術部にはそうそうたる顔ぶれが連なる。日本画家、塚原哲夫（故人、51年卒）は東京芸大日本画科を卒業し、佐野高校や鳥山高校などで教えた。その後も高美術部から東京芸大に進む後輩が続いた。



山口鐘の「おかげさまで今日無事ありがとうございます」の揮毫（きごう）を前にする福田。「勝業まんじゅう」「芋ようかん」は自慢の作

東京・銀座の飯田画廊を経営する飯田祐三（79、53年卒）は美術部長を務めた。77年、高美術部を率いながら、高美術部としてアートに関わっている。

タムラサトルの「真夏の遊園地」は宇都宮市の県立美術館で開かれている。23日まで。23日午後2時から「アーティスト・トーク・アンコール」でタムラが自らの作品について話す。一般800円、大高生500円、中学生以下無料。22日休館。問い合わせは県立美術館（028-621-3566）へ。熊倉の作品「もっけ」はアフタヌーンKC（講談社）で読むことができる。栃木高校のOBや同窓会についての情報はutsunomiya@asahi.comへ。

高美術部、漫画創作部に流れるアートの伝統は今も受け継がれている。（敬称略）

年にミレーの名画「種まく人」を買いつけ、山梨県立美術館におさめたことで一躍有名に。実弟の飯田昌平（75、58年卒）も美術部。「兄貴に引っ張られて入っただけで、顔を出さなかった」。飯田兄弟共通の思い出は、美術部名物教師福富実（美術では食えないので勉強しろ）と言われたこと。祐三は東京大丸の美術部に、昌平は東大に進み、今は小山市立車屋美術館館長としてアートに関わっている。